

村田町村田(宮城県)

(1) 保存地区の概要

【地区名】 村田町村田

【種別】 商家町

【面積】 約7.4ヘクタール

【選定年月日】 平成26年9月18日

【町並の歴史】

町の成立は定かではないが、江戸中期頃には、村田城(館)の東に、現在の町並の基礎となる町場が形成されていたといわれる。江戸期の商人達は、上方等と活発に取引をし、特に、紅花は代表的な商品であった。明治期以降も、商人は、商店経営や地主経営等を積極的に行って財を成し、町は活況を呈した。

江戸末期の様子を描いた絵図を見ると、村田城の東側に、道路と宅地、水路等が整然と配置された町の様相が伺える。東端の河川(荒川)と平行に通る道の両側に「町家」と示された街区があり、この一部が、現在の保存地区である。保存地区では、南北に通る街道に対して間口が狭く奥行きが深い短冊状の敷地割りが、当時と同じく保たれている。

【建造物の特徴】

屋敷は、店、主屋を中心に、奥行方向に建つ複数の土蔵や屋敷神など様々な建造物によって構成されている。

店は街道に沿って建ち、主屋はその背後に棟を違えて接続する。更に、敷地の奥に向かって、土蔵等付属屋が建ち並ぶ。これら建築物は、敷地の北側に寄せて建てられ、南側には石敷の外通路が設けられる。

店は、重厚な土蔵造が多い。二階建てで、街道に面して下屋庇を設け、内部はこの部分のみを土間とし、他は床張りである。主屋は、平屋または二階建てで、外通路に面して全面的に開口部となる開放的な造りである。一階の間取りは、部屋が串刺し状に並び、一般的には奥に行くほど部屋の格式が上がる。

敷地の間口にかかわらず、店の南脇、つまり外通路の入口に表門が構えられる。軒を深く張出した大型の門は、それぞれ欄間飾りや彫刻に趣向が凝らされる。このように、店と門が交互に建ち並ぶことによって、特徴的な町並が形成されている。



(2) 保存地区のあゆみ

- ・平成 5年 9月 日本ナショナルトラストによる町並み調査
- ・平成 6年 3月 同調査報告書刊行
- ・平成23年 3月 東日本大震災 (M9.0/村田町における震度5強)
土蔵造の建造物を中心に、壁の崩落等の被害多数
- ・同 7月 東日本大震災文化財建造物復旧支援事業(文化財ドクター事業)による調査の実施
- ・同 12月 文化財講演会(教育委員会主催)を開催
- ・平成24年 3月 定例町議会における町長の来年度施政方針に、伝建地区を目指す旨盛り込まれる
- ・同 6月 役場職員対象の伝建制度に関する研修会(全2回)を実施
- ・同 9月 区長等地区代表者対象の説明会を開催
- ・同 10月 文化庁調査官による講演会を開催
- ・平成25年 2月 住民説明会開催(計2回)
- ・同 11月 村田町伝統的建造物群保存地区保存条例を制定
- ・同 12月 第1回保存審議会(計3回)
- ・平成26年 1月 保存地区の都市計画決定に関する住民説明会を開催
- ・同 3月 村田町村田伝統的建造物群保存地区都市計画決定・保存計画告示
- ・同 9月 **重要伝統的建造物群保存地区選定**
選定記念式典・シンポジウムを開催
- ・平成27年 4月 修理・修景補助事業開始
- ・平成29年12月 宮城県建築士会有志・村田伝建調査隊の協力により建物講座を開催
- ・平成30年 8月 旧大沼家住宅が国重要文化財に指定
- ・令和 1年11月 重伝建選定5周年記念企画展「普請—建築史料から見る村田商家—」を開催
- ・令和 3年 2月 福島県沖地震(震度5強)により、土蔵造建造物を中心に被害多数。災害復旧事業開始
- ・令和 4年 3月 再び福島県沖地震(震度5強)が発生。被害が増大し、災害復旧事業継続。



重要文化財旧大沼家住宅

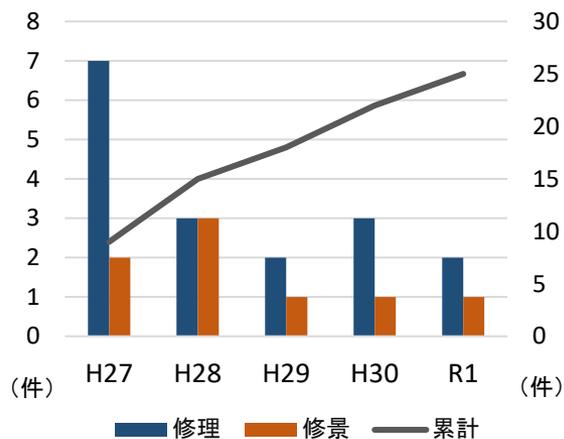


重伝建選定5周年記念企画展

(3) 保存地区の保存と整備

平成27年度から修理・修景工事の補助事業を開始し、以下のグラフのような実績となっている（令和2年度は修理・修景事業休止。令和3年、令和4年は地震災害復旧事業を実施）。

その他、平成27年度には、案内看板を2基設置した(防災施設等事業)。



案内看板

【修理事業事例】

修理前



修理後



【修景事業事例】

修景前



修景後



(4) 保存地区の活用とまちづくり

保存地区では、重要伝統的建造物群保存地区選定前より、「蔵の町むらた布袋まつり(10月)」「みやぎ村田町蔵の陶器市(10月)」「むらた町家の雛めぐり(3月)」など、季節ごとに祭りや行事が行われてきた。選定後は、観光客が以前より増加し、これらの行事も活発化している。

平成29年度には、まちづくり会社が発足し、特定物件を活用した店舗等の開店を推進している。新規事業者の参入もあり、令和3年11月には新たな観光イベントが開催された。

今後も、度重なる地震被害や新型コロナウイルス感染症を乗り越え、建築物の活用を促進し、地区内の交流人口の更なる増加を目指している。



蔵の町むらた布袋まつり



みやぎ村田町蔵の陶器市



蔵しく文化祭



特定物件を活用したカフェ

(5) 住民等の取組(連携協力事業)

伝統的建築技術の普及啓発、理解促進を図るために、専門家と協力して、以下のような取り組みを実施している。

- ・平成28年度 土壁づくり体験講座(協力:横浜国立大学協力)
 - ・平成28年度～ 伝統様式調査(協力:村田伝建調査隊)
- その他、講演会や見学会等を随時開催



土壁づくり体験講座



伝統様式調査



講演会



伝統様式調査報告会



修理事例見学会



修理現場見学会